
長中魂



平成29年10月20日(金)

第23号

伊豆の国市立長岡中学校だより
文責 守野 和弘

第4ステージ「充実」スタート

～ 『充実』 … 毎日を大切に・今の努力が夢へつながる～
【10月16日(月)・朝礼より】

○亀山校長先生の話

朝礼の前に表彰がありました。これまで3年生がたくさん受けていたのが、今は2年生が中心の表彰になってきました。これからの活躍が楽しみです。

さて、今日の話のキーワードは「向き合う」です。前期生徒会では、「繋ぐ」をスローガンに体育の部を大成功に導きました。後期生徒会は、それを受け継いで、文化の部を大成功させました。一人一人が同じ方向を向いて大きなことを成し遂げました。「パズル」というスローガンは今の長中にぴったりだと思います。一人一人は長中を彩る大事なピースです。店で売っているパズルのピースは大きさや形がまっています。長中のパズルはそうではなくて、ピースである一人一人の取り組み、周りとのつながりによってパズル全体の大きさや姿、完成度が変わってきます。

そこで、「向き合う」です。日が短くなり、家に早く帰ることができます。そういう時間に自分と向き合う。よりよい自分になっていくために、そしてすばらしい長中、田方一の学校というパズルが完成するために、自分に何ができるのか、何をすべきなのか、じっくりと向き合ってみてください。後期生徒会が目指す素敵なパズルを創っていきましょう。



○佐野先生(生徒指導担当)の話

ステージが第4ステージ「充実」になりました。第3ステージ「団結」では、先生は担任として優勝すべくして優勝する、金賞をとるべくして金賞をとる、つまり、優勝や金賞をとったとき、誰からも認められるクラスになろうとやってきました。今度は「充実」です。一人一人、自分が成長するために何ができるか考えてやっていきましょう。長中が田方一となっていくために何ができるか考えて行動しましょう。

さて、少し話は変わりますが、車で登下校している人が最近増えてきました。下校のときに友だちの家の人の車に便乗して下校する人もいます。ケガや事情がある人は仕方ありません。歩いて通うのが本来の姿で一生懸命歩いて通っている多くの人がいるなかで、車で登下校するのは、みんなから認められる人となるのでしょうか。考えてみてください。

みんなから愛される人、愛される長中となっていくために、自分がどういう行動をとったらよいのか、よく考えていきましょう。



登下校は徒歩

<各大会・コンクールの結果>

○男子ソフトテニス部・田方地区秋季少年少女ソフトテニス大会

・団体の部 第3位 ・個人の部 大村拓矢・平馬大輝組 第3位

○柔道部・第13回金井学園理事長杯少年柔道大会

個人戦 ・軽量級 加藤遼馬 第3位 ・重量級 若田部桔平 第3位

・重量級 小田 春樹 第3位



伊豆の国市音楽発表会～演奏する楽しさが伝わってきました～



10月18日(水)にアクシスカつらぎで伊豆の国市音楽発表会が行われました。これに、かつらぎ祭文化の部で金賞に輝いた3年4組と太鼓部の生徒が参加しました。太鼓の演奏は市内他校にはなく、その迫力と息の揃った演奏に圧倒されていました。また、3年4組は市内3校の最後に出場し、「あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ～」を歌いました。指揮の動きと伴奏に合わせて各パートの生徒が体を揺すりながら、歌詞に込められた気持ちが伝わるように丁寧に演奏し、とても感動しました。長岡中学校の存在感を示した伊豆の国市音楽発表会となりました。

一人一授業公開・紹介⑦ ～『対話を通して深く学ぶ授業作り』を目指して～

☆☆☆**学習課題「学習した基準をもとに、セキツイ動物を分類してみよう」**☆☆☆☆
浦田実和先生(2年3組・理科)



これまで身に付けてきたセキツイ動物の分類の知識を活用し、あえて分類に迷う動物が何類なのかを考えることにより、セキツイ動物の種類について理解を深めると共に、動物の多様性について関心を高めることを目標として行われました。分類していくのは、A『ヤモリ・イモリ』、B『アオダイショウ・ウナギ』、C『コウモリ・フクロウ』、D『シャチ・サメ』、E『カメレオン・カエル』の5組10種です。動物を提示すると、「コウモリって翼があるから鳥だよな。」「シャチは肺呼吸?」「ウナギはハチュウ類?」「カメレオンは何だろう?」などのつぶやきありました。

その後、各班一人一人がA～Eを分担し、他班の同じ動物を分担しているもの同士で集まり、浦田先生が用意した資料(動物の拡大写真、呼吸器、親から生まれた時の姿)をもとに追究し、判断していきました。「ヤモリはウロコがあるけどイモリは表皮がぬるぬるしている。水がないと生きられない。」「コウモリは胎生だ。翼があるけどほ乳類だ。」「ウナギはウロコが見えないけど一生えら呼吸だ。」これら気づきを根拠としてそれぞれ何類の動物なのか、A～Eの各グループでまとめていきました。元の班に戻り、A～Eの動物について、呼吸のしかた、子のふやし方、体表のようすなどを根拠にして何類なのかを互いに説明し合い、理解を深めていきました。最後、授業を振り返り、分かったことや感想などをレポートに書きました。「他の班員のために責任をもって調べ、わかりやすく説明することができた。」などのうれしさや、「同じホニユウ類でも生活場所が海だったり空を飛べるようになっていたり不思議に感じた。」など、進化の学習への関心の高まりなどが書かれていました。浦田先生の理科教師としてのモットーは、「**できるかぎり体験をとおして、実験・観察をたくさん行うことで、実感を伴った理解へとつなげる**こと」です。本時には実験や観察はありませんでしたが、身近な動物調べを行って興味を高め、本時に至っています。また、この後、無セキツイ動物の仲間としてイカの解剖なども行われました。

